

～今月の花木～



ドウダンツツジ 満天星躑躅

ツツジ科・落葉低木・東海～九州地方の一部に自生
 公園や庭、街路樹など身近に見かけることの多い低木
 である。秋には紅葉する。



日々の植栽管理作業によって維持管理されている景観（昭和記念公園）

植栽管理

植物は放任していても育ちますが、生活環境に接している植物の多くには、私たちと共存してゆくためにも、手を掛ける管理作業が必要です。

春になり気温の上昇とともに多くの植物の活動が活発になります。それに伴い木々の枝葉の伸長や草が伸び、病害虫の活動も活発になり、それらに対応するため植栽管理作業が増えていきます。生き物を相手にする植栽管理は相手の生育特性に合わせた作業が大切になります。

植物は四季の変化に応じてほぼ決まったライフサイクルで生育しているため、年間の管理作業も大体決まっています。作業内容の例は下の写真を、年間の作業スケジュールは裏面の表に記載しましたので、よろしければ参考までにご活用下さい。

管理作業は地面に近い植栽ほど目に留まり植物の生長も早いため、頻度が多い傾向があります。

- (多) 草刈、除草、芝刈
- ※年3回以上
- (中) 中低木刈込
- ※年1～2回
- (少) 高木剪定
- ※1年～3年に1回

※は最低作業頻度目安

植栽管理には伸びたから切ったり刈ったりするといった基本的な作業以外にも、倒木や枯枝落枝や人的被害をもたらす害虫被害の軽減、衰弱した樹木の樹勢の回復、定期的な花壇の植え替えなど、植栽環境全般に関わる景観の維持向上や安全性の確保などが含まれています。

管理する場所の広さ、植栽の種類、予算、目的、優先度の高低等により植栽管理作業の内容・時期・頻度は変わりますので、詳しくはご相談ください。

主な植栽管理作業メニュー

主な作業例を写真で掲載していますが、この他にも様々な作業があります。植栽管理は維持管理作業の一環と見なされ、現状維持を基本とする向きもありますが、現実の植栽環境は良くも悪くも日々変化しているため、柔軟な対応が必要です。



高木剪定



中低木刈込剪定



病害虫防除（薬剤散布）



芝刈り、草刈り



人力除草



高木伐採



樹木診断



花壇管理



土壌改良（樹勢回復）

植栽管理年間工程表

作業時期は一般的な目安です。植栽の種類や目的により変わりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

最適期 ←————→ 多少よい時期 ←.....→

作業内容\時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
樹木管理												
常緑樹剪定	←.....→ ←————→										常緑樹は寒い時期はよくない	
落葉樹剪定	花木は花芽形成前に剪定		夏期剪定(軽剪定)			落葉前だと落葉清掃が楽/冬期剪定(基本剪定)						
針葉樹剪定	←.....→										針葉樹は時期によらず強剪定に弱いものが多い	
植込みや生垣刈込	花木は花芽形成前に剪定			花芽形成後の花木は、とびを取る程度に軽く刈込む								
植込み地除草	←————→						←————→					
施肥	春の芽だし肥や花後のお礼肥(速効性肥料)						寒肥は特に有効(遅効性肥料)					
病害虫防除	チャドクガ(ツバキ類)注意				サクラ、ツバキ類注意		冬季にはマシン油乳剤、石灰硫黄合剤が散布できる					
マツ手入れ	みどり摘み			もみ上げ(古葉落とし)、透かし剪定								
マツ枯れ防止	枯マツは4月までに伐採が特に有効						マツ枯れ予防剤注入は冬期に施工が必須					
芝生管理												
芝刈り	月1回		月2回		月1回(11月で刈り止め)							
除草剤散布	冬雑草発芽前						夏雑草発芽前					
施肥	←————→		←————→		←————→		←————→					
手取り除草	←————→		←————→		←————→		冬雑草は目立つので取りやすい					
芝張り(補植含む)	←.....→										←.....→	
裸地・そのた管理												
草刈り・除草	←————→						年3~4回は行いたい					
落葉はき	新芽が出た後の常緑樹			落葉樹								
樹木点検	枯枝や危険木の早期発見		台風被害の予想点検			台風後の被害点検			大雪後の被害点検			
四半期ごとの作業ポイント	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	●新芽が展開して繁茂する前の4月は枯枝等の発見がしやすく、樹木の点検作業には適している。 ●気温の上昇とともに病害虫の発生が目立つようになるため、春先から秋にかけて、防除対策が必要。 ●6月までに少なくとも1回以上、芝刈りや草刈り・除草作業が必要。回数は多いに越したことがない。			●ツツジ類などの夏に翌年の花芽をつける樹種は7月までに刈込剪定等が必要。 ●夏期は樹木内のエネルギーが低い時期なので強剪定をすると樹勢が弱る可能性が高い。 ●芝生や雑草は生育旺盛な期間のため、芝刈りや草刈り・除草作業はこの間に最低2~3回程度は必要。 ●台風への警戒が必要。			●常緑樹は寒さが厳しくなる手前の10月頃の剪定がよい。 ●落葉樹は11月以降がよく、落葉前に実施すると落ち葉清掃が楽になる。 ●年末に向けて庭や外回りの植栽を綺麗にしたい要望が多い時期で、造園屋(植木屋)は繁忙期となる。 ●芝刈り、草刈り等は11月~12月は今年最後の刈り止めの時期である。			●草木が休眠期で伸びないため、植栽管理作業は閑散期となる。 ●落葉樹の剪定は樹木の生理的にも作業的にも適期となるが、常緑樹は強剪定をすると樹勢が弱り、枯れこむ樹種がある。 ●庭木などに肥料、樹勢回復のための土壌改良などに適した時期である。 ●大雪時の枝折れや倒木への警戒が必要。		